

産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業
【テーマA】教育改善・充実体制整備 最終評価結果

大学グループ名	青山学院大学グループ
取組名称	首都圏に立地する大学における産業界のニーズに対応した教育改善
取組テーマ	① 産業界のニーズの把握 ② 社会的・職業的自立力の測定手法の開発 ③ 産業界のニーズに対応したカリキュラムの開発・体系化 ④ 産業界との連携による人材育成プログラムの開発 ⑤ 産業界のニーズに対応した技術者の育成
取組担当者	青山学院大学 副学長 青山スタンダード教育機構長 経営学部教授 長谷川 信
連携校名 (★幹事校)	お茶の水女子大学、★青山学院大学、大妻女子大学、工学院大学、駒澤大学、 芝浦工業大学、昭和女子大学、女子美術大学、専修大学、拓殖大学、 東京家政大学、東京電機大学、東京都市大学、東京未来大学、法政大学、 明治学院大学、目白大学、東京家政大学短期大学部 (計18校)

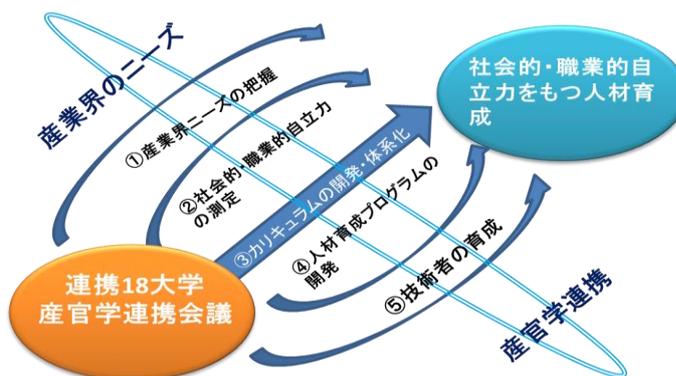
事業概要

首都圏に立地する18大学が連携して、産業界のニーズに対応した教育の促進を図るため、5つの取組テーマを設定して活動を行った。

本補助事業では、それぞれの特色と資質を持ち、またそれぞれの課題を抱えた連携大学が、業種・職種によって異なる産業界のニーズに対応しながら(①産業界のニーズの把握)、社会的・職業的自律力を持った人材の要請に資するために、カリキュラムの改善・充実を行い(③産業界のニーズに対応したカリキュラムの開発・体系化)、産業界と密接に結びついた人材開発プログラムを開発(④産業界との連携による人材育成プログラムの開発)を行った。さらに技術者のように、客観的な評価基準の設定が相対的に容易で、グローバルな競争に置かれている領域においては、その領域に特化した改善策を立てる必要があり対策を検討した(⑤産業界のニーズに対応した技術者の育成)。また、提案されたカリキュラムや人材開発プログラムの有効性を測定する手法の開発を試みた(②社会的・職業的自立力の測定手法の開発)。

以上の取組を通じて得られた主たる成果は以下の通りである。①フォーカス・グループ・インタビューによる産業界ニーズの把握手法の開発・体系化、②ペーパーテストにビジネスゲームを加えたHATと名付けた新しい社会的・職業的自立力の測定手法の開発、③産業界ニーズに対応したキャリア教育参照基準の作成、④新しいタイプのインターンシップ(企画販売型インターンシップなど)の開発と、働く力を理解するためのビデオ教材の開発、⑤理系学生を対象とした新しい教育手法の開発、などを行った。

※詳細については、<http://career-edu.nikkeihr.co.jp/group/Contents/1/index.html>を参照。



最終評価結果<総合評価> A

《コメント》

首都圏に立地する大学間、企業等間の連携に難しい面があると思われるが、取組テーマ毎の幹事校が目標と成果に責任を持ち、テーマ毎の大学グループにペースメーカー校、オーガナイザー校を置く実施体制で運営することにより、参加大学とのコミュニケーションを取り、連携体制を維持している点は評価できる。また、それぞれのテーマ毎に、報告書や分析データ等の具体的な成果物が残されており、成果が分かりやすい点も優れている。

一方で、取組テーマ毎の成果物は確認できるが、各テーマ間のつながりが把握しづらく、グループ全体としての成果が見えにくいこと、大学間の連携体制をより整備する必要があること等、改善の余地がある。また、取組全体の実施効果に対する評価基準と評価体制を構築すべきだと考える。今後、残された成果物が首都圏の18大学と多様なニーズを持つこの地域の産業界との連携にどのように役立つのか、支援事業終了後の連携体制の維持及び強化と、成果物の有効活用、有効性の検証が課題である。